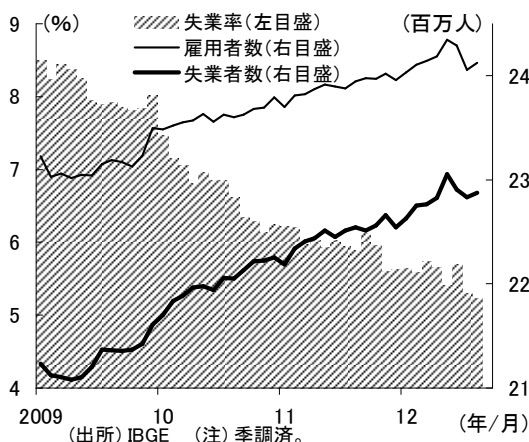


改善進むブラジル雇用

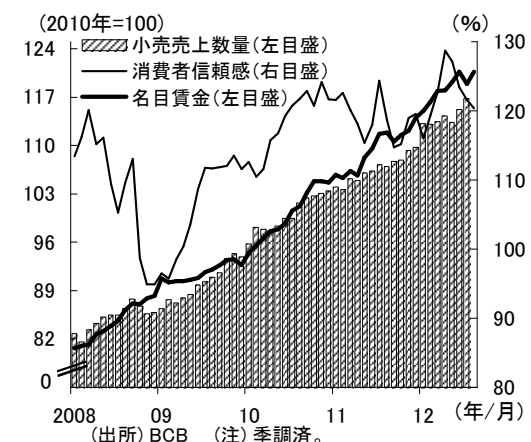
～ 失業率が既往最低に ～

- (1) 8月ブラジル失業率が5.3%、季節調整を施すと5.2%と既往最低に（図表1）。失業率は2010年に急ピッチで低下した後、10年末から一進一退。11年末に若干低下した後、12年春まで横這いで推移。しかし5月から再び低下傾向。一般に失業率は雇用者数が増え、失業者数が減って低下。それに対し、今回、雇用者数が弱含むなかで失業率低下。背景には余剰労働力の減少。
- (2) 労働需給の逼迫は賃金上昇圧力の増大に作用。季調ベースでみると名目賃金は10年末から11年初、一時的に横這いで推移した後、再び堅調な増勢を回復（図表2）。一方、消費者マインドは月毎に変動しているものの、引き続き高水準。両者を重ねて小売売上数量の推移をみると総じて名目賃金に連動して小売売上数量が一貫した増勢を続けるなか、消費者マインドに伴って小売売上数量の増勢が変動。欧米経済の先行き不透明感が消費者マインドの慎重化に作用するものの、失業率の低下など雇用情勢の改善は消費者マインドを下支え。力強い同国消費に翳りが拡がる懸念小。
- (3) エリア別には雇用情勢に差異。直近の雇用情勢をみるために本年4～6月期と7～8月を季調ベースで対比するとポルトアレグレやベロオリゾンテをはじめ雇用者数、失業者数とも減少する都市がある一方、レシフェでは雇用者数、失業者数ともに増加（図表3）。サンパウロやリオデジャネイロを含め、これまで同国経済を牽引してきた南東部や南部では労働需給の逼迫が深刻化。それに対し、ペルナンブーコ州都レシフェやバイーア州都サルバドールなど、従来開発が遅れ、近年経済成長が本格化してきたエリアには余剰労働力。失業者数が減って雇用者数が増加、あるいは景気の好転を受けて労働市場に新たに参加する動きが拡がり雇用者数、失業者数ともに増加。
- (4) 主要州別の小売売上数量を4～6月と7月で対比しても大幅増加は新たな産業拠点として成長離陸が始まったセアラ州をはじめ地方圏（図表4）。地方圏の台頭で同国成長力は一段と強化へ。

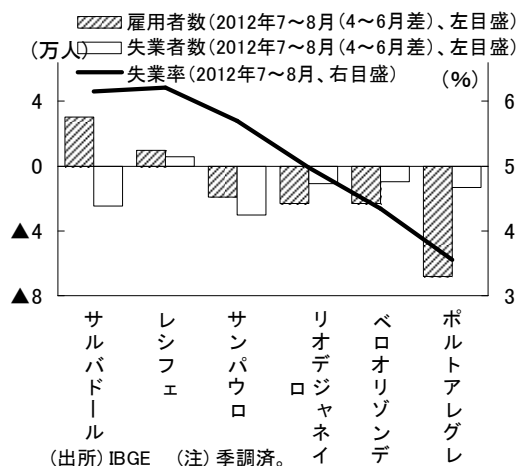
（図表1）ブラジルの失業率と雇用者数、失業者数



（図表2）小売売上数量と消費者信頼感、名目賃金



（図表3）都市別失業率と雇用者数、失業者数



（図表4）主要州別小売売上数量（季調済）

